

令和8年度  
第1回朝日地域振興懇談会  
会議録（概要）

期日 令和8年8月20日（木）

場所 朝日庁舎 第1・2・3会議室

令和8年度 第1回朝日地域振興懇談会会議録（概要）

- 日 時 令和8年8月20日（木） 18時30分から20時35分まで
- 会 場 朝日庁舎 第1・2・3会議室
- 出席者 難波金一会長、菅原尚人委員、井上秀夫委員、渡部恵美委員、佐藤清委員、  
大瀧博勝委員、井上舞委員、清野吉喜委員、難波志津香委員、今野めぐみ委員、  
佐藤尚貴委員、伊藤由紀子委員 （12名）
- 欠席者 伊藤ます子委員、佐藤芳彌委員、進藤淳委員 （3名）
- 市側出席職員  
【朝日庁舎】支所長 五十嵐孝義、地域づくり推進課長 清野たえ、産業建設課長 五十嵐雄、  
地域づくり推進課主査 遠藤洋子、同 主事 近野辰夢  
【企画部】地域振興課専門員 佐藤祐 （6名）
- 傍聴者の人数 2名

一次 第一

※組織の代表者変更に伴う新委員への委嘱状交付

1. 開 会
2. あいさつ
3. 報 告
  - （1）令和7年度第2回朝日地域振興懇談会での意見への対応について
  - （2）「朝日地域住民意識調査」一次集計結果について
4. 懇 談
  - （1）令和8年度朝日庁舎主要事業について
    - ・令和8年度朝日庁舎主要事業
    - ・令和8年度朝日地域振興事業
  - （2）その他
5. そ の 他
6. 閉 会

※新委員への委嘱状交付については、各委員の席に委嘱状を配置した上で、対象者の氏名読み上げをもってこれに代えた。

1. 開 会            18時30分（進行 地域づくり推進課長）

2. あいさつ

3. 報 告

（1）令和7年度第2回朝日地域振興懇談会での意見への対応について

説明：地域づくり推進課長

（2）「朝日地域住民意識調査」一次集計結果について

説明：地域づくり推進課長

4. 懇 談

（1）令和8年度朝日庁舎主要事業について

・令和8年度朝日庁舎主要事業

説明：支所長、地域づくり推進課長、産業建設課長

・令和8年度朝日地域振興事業

説明：地域づくり推進課長、産業建設課長

【会長】

ただ今の事務局からの主要事業についての説明や住民意識調査の結果等の報告事項、また、事前配付された資料をご覧になってのご意見、ご感想など皆さんから活発なご発言をお願いしたい。

【委員】

資料 5 湯殿山スキー場の振興について、オールシーズン湯殿山スキー場の有効活用に向けて取り組んでいくとの説明があった。中台池をスキー場エリアの観光スポットとして活用していければと感じているが、市として中台池周辺を整備する予定はあるのかお聞きしたい。

【産業建設課長】

中台池は湖面が大変きれいで、周囲の木々がうっそうとしていて非常にいい環境だと思っている。6月に付近でクマによる人身被害がありロープを張っている状況である。

地域おこし協力隊の二人も、中台池周辺の景観を非常に気に入っており、景観を活かした取り組みができないか現在企画を検討している。今後の活用や整備について検討していく。

【地域づくり推進課長】

中台池については、観光の面から活用していきたいとは考えているところだが、管理人を毎日配置できる場所ではないということから安全対策の部分が活用するうえでの大きな課題となっている。以前は池一周散策できるようなルートがあったが、事故発生時の安全管理体制の確保が困難であることから一般開放していない。ご意見を踏まえ、今後はスタッフが同行するイ

ベント等において、参加者への紹介や体験機会の提供など、活用方法を検討していきたいと考えている。

【委員】

湯殿山スキー場については、スキー場としても、地域おこし協力隊の方もインスタグラム等で賑やかに楽しそうな雰囲気を PR している。112 号線は緑はきれいだがスキー場の楽しいイメージができないのは残念だと思っている。西川町で 112 号線沿いに設置しているデジタルサイネージを見ると、西川町頑張っているなど感じるので、スキー場での取り組みが広く周知できるような看板を設置するなど PR に力を入れてほしい。

【委員】

豪雪地帯雪下ろし支援事業について質問したい。住民アンケートでも雪に関しては多くの方が不安を感じていることがうかがえる。この事業の具体的な対象者など内容についてもう少し詳しくお聞きしたい。

【地域づくり推進課長】

資料 6（令和 8 年度朝日地域振興事業）の 3 ページに事業内容を記載しているが、一冬に 3 回以上の屋根の雪下ろしをするような豪雪地帯で、業者等へ委託し費用の支払いが行われているケースを対象とする。

その他に雪下ろし助成制度として、民生委員のご協力をいただき実施している、高齢者世帯等の雪下ろし費用補助事業という制度があるが、対象者は限定されている。

今回新設した事業については、対象を限定せず、所得制限・年齢制限を設けない方向で考えている。一方で、事業の運用基準を明確に設定する必要があるため、雪下ろしの実施回数や、業者への委託費用が一定額以上であること等を要件として整理する必要がある。これらの詳細について今後検討していく。

【委員】

桧原二ノ俣峠越山道復元事業について、山登りをする人にとっては、往復するだけでもそれなりの楽しさはあるが、やはり峠を越えることこそが最も大きな魅力だと感じている。六十里越街道も隣の西川町とうまく連携しているところもあれば、課題が残る所もあり難しい面もあると思うが、今後の取り組みの進展に期待している。

【委員】

住民アンケートの報告があったが、8 月にはいつてからも回答が届いているとのことだが、最終的な締切をいつと考えているか。

資料 3（令和 8 年度朝日庁舎取組方針と朝日地域振興事業）を見ると、朝日地域の人口が毎年 100 人から 150 人ずつ減っていくなかで、人口減少を食い止めた自治体の成功事例は全国にあると思われるため、全国の取り組みを参考にできないか。すぐに効果は表れなくても、参考にできる取り組みを導入することで、人口減少のペースを緩やかにできるのではないかと期待しており、そうした情報を収集しているか伺いたい。

【地域づくり推進課長】

初めに、住民アンケートの回答期限については、8 月末を期限として最終的な集計に入りたいと考えている。

次に、人口減少対策について、全国の成功事例を十分に調査するまでには至っていないのが現状である。委員ご指摘のとおり、人口減少のペースをいかに緩やかにしていくかは非常に重要な課題であると考えており、インターネット等を活用して全国自治体の人口減少対策の取り組みに関する情報収集を進めていきたい。

【委員】

六十里越街道弁当について、興味深く説明をお聞きした。大々的に宣伝したらかなりインパクトある商品になると思う。去年は 264 個販売したとのことだが、値段はどのくらいで、どういった格好の物か具体的にお聞きしたい。

【地域づくり推進課長】

六十里越街道弁当は携わる方々で共通の定義のもと製作しているもので、基本的には、竹の皮を模した素材でつくられた容器に大きめのおにぎりを 2 個、そして季節のおかずを入れていく。季節によっておかずが変わり、参画するお店の特徴を入れるのも売りの一つである。

去年の販売先としては、観光協会に関わっており年 10 回程度開催されている六十里越街道トレッキングでの提供をはじめ、六十里越街道を歩かない方も、会合などのときにご注文いただいたというケースもある。金額は 1,000 円～1,500 円程度で販売しており、今後、さらに販売個数が増えるように取り組んでいきたい。

【委員】

住民アンケートに「地域の活動の中で負担が大きいと感じるものは何ですか」という質問があるが、やはり村の共同作業の負担が大きいと感じている。自治会としては、慣例的に続いてきた共同作業のうち、必要性が低いものは廃止するなど、作業量の縮減を進めている。

共同作業の内容や負担は地区ごとに差があり、部落日当の取り扱いなども地区によって大きく異なるため、集落支援員を交え各地区の課題や作業内容の違いを共有し、負担軽減に向け、行政が中に入って調整を進めてほしい。

必要な作業については、可能な人で有料化して対応する案も出ているが、高齢化に伴い、共同作業に参加できない住民が増えており、誰がどのように作業を担うかという悩みが深刻化している。これが住民の不安・負担としてアンケートにも表れていると思う。

【委員】

桧原二ノ俣峠越山道復元事業について、現在、草刈り作業が行われており、去年は中学生が 6 名散策したとのことだが、山熊田地域（新潟）まで歩くと時間はどれくらいかかるか。

草刈り活動を単なる作業にとどめず地域との交流につなげるなど、活動を発展させる可能性があるのではないかと思います。環境整備を進めることで、中学生だけでなく、リタイア世代など幅広い世代の参加につながるのではないかと期待している。こうした交流促進や環境整備について、行政として何らかの計画や検討があるのかを確認したい。

#### 【産業建設課長】

行政としては、交流促進や環境整備について具体的な依頼は行っていないが、活動している地元団体へご提案があったことを共有したい。

相手方地域でも高齢化が進み、作業が難しくなっているとの話があるが、交流を重ねることが取り組みの基本であり、双方の関係づくりが重要と考えている。そのため、委員のご意見やご提案については、地元団体にしっかり伝え、今後の活動の参考としていただきたいと考えている。

#### 【地域づくり推進課長】

山熊田側から県境までは、集落から歩き始めても 1 時間程度で到達できると聞いている。一方、鶴岡側は、以前は 1 時間程度の地点まで車で入れたが、災害により車道が通行不能となり、現在は麓から歩く必要があるため 2～3 時間程度の行程になると聞いている。その結果、全体の行程が長くなり、活動の負担が大きくなっている。

もともとこの事業は、かつて山熊田から大鳥へ嫁入りする際に山を越えて往来していたという歴史的な繋がりを踏まえ、道路を復元し交流を再開することを目的として始まった。しかし、災害によるルート寸断の影響で、当初想定したような進展が得られていないのが現状である。

#### 【委員】

鳥獣被害のことについて、今年タケノコ山（共用林野）でクマによる人身被害が 2 件発生したが、昨年と比べて被害や目撃情報はどの程度増減しているのか確認したい。

また、人身被害の影響で来訪者が減っているようだが、タケノコ山は今後も継続するのか考えを伺いたい。

#### 【産業建設課長】

クマの目撃情報は、担当者の感覚では昨年より少ない印象とのことだが、地域特性として目撃しても通報しない傾向があり、実際にはクマは存在している。捕獲数は例年より多く、被害防止のために積極的に捕獲した件数も含まれている。

共用林野については、地元住民が採取を生活の糧としていることから、今回のような人身被害が発生した場合を除き、来年度以降も通常どおり使用する方針である。

安全対策として、鈴やラジオなどで自分の位置を知らせる、クマ撃退スプレーを携帯するなど、自己防衛の徹底を住民にお願いしている。今回の被害では、遭難かクマ被害か判断できず、連絡が取れない状況が課題となったため、入山時に家族へ下山予定時刻を伝えるなどの自己防衛に努めるように、住民懇談会等で説明をしている。共用林野であることを踏まえ、現時点で強い入山規制を行う考えはない。

#### 【委員】

クマだけでなくイノシシの被害もかなり確認されている。田畑が大規模に荒らされた場合は重機で修復できるが、畦が数メートル壊れる程度の小規模被害では重機を頼めず、すべて人力で直さざるを得ないため、負担が非常に大きい。高齢になるほど畦の修復などの肉体労働が困難になり、「もう続けられないのではないかと感じるほど深刻な状況になっている。小規模な

畦の被害に対して、どのような支援や対策があるのか参考として伺いたい。

#### 【会長】

イノシシ被害が広がっており、農作業への影響が深刻化している。交付金を活用した鳥獣被害対策に取り組んでいる地域もあると思うが、そうした事例を把握していればお伺いしたい。

#### 【産業建設課長】

鳥獣被害対策については、市としても費用助成を行っている。イノシシによる掘り起こし被害の復旧については、「農地農業用施設鳥獣被害復旧事業」で対応しており、バックホウのリース料や運搬費などが補助対象となる。一方で、住民が自力で行う小規模な復旧作業に対する補助は現状用意していない。

鳥獣被害対策の制度や支援内容については、9月号広報と同時配送で自治会へ案内する予定であり、イノシシ以外の鳥類を含む各種対策を一覧で確認できる。被害が発生した際は、市へ連絡してほしい。

#### 【委員】

住民アンケートで“朝日地域に住みたい”が73.4%と高いが、年代別の傾向がどうなっているか非常に関心がある。また、「地域について話し合う機会があれば参加しますか」という問いには“参加しない”が55.2%と高く、地域活動への参加意欲の低さが気になっている。

それから、鳥獣被害について、クマやイノシシの出没が増えており、田んぼに足跡があるなど身近な危険を感じている。収穫期の稲が被害を受ければ、出荷停止や収入減につながり、生活に直結する深刻な問題である。鳥獣被害が続くと農業を続けられず、地域に住み続けることも難しくなるという強い不安がある。

また、朝日地域には観光客が訪れる施設や行事、R天国、スキー場、六十里越街道のイベント等があるが、地域内に宿泊施設がないため、観光客が地域にお金を落とす機会が少ないと感じている。宿泊施設があれば、若い人の雇用機会が生まれ、地域に経済的な循環が生まれるのではないかと考えている。私も米価が高かった昨年であれば宿泊施設の開業も考えられたが、今年は厳しい状況だと感じている。

#### 【委員】

公共交通について、以前から利用しやすい運行時間等への要望を出していたが「検討する」「庄内交通としても検討していく」との回答にとどまっており、今回の資料を見ても改善の見通しが立たず期待できないと感じている。

住民意識調査でも「若い世代が住み続けられる地域」が望まれているが、公共交通の不便さが若者・子育て世代の生活に大きく影響している。高校生のアンケート結果でも“バスが不便”という回答が20人もあり、交通に対する不満が地域に多くあることを感じた。

資料4-2の「あさひバス利用人数」について、利用者が少ないのは不便だから乗らないだけであり、需要がないわけではないと思う。地域住民が交通面で深刻な不便を抱えている現状を踏まえ、庄内交通との調整や制約があることは理解しつつも、従来の枠組みにとらわれない支援策を検討すべきだと思う。例えば、あさひデマンドスクールバスのような、夏休みは運行し

ないが登校期間のみ運行する仕組みや、青森県では隣町の高校までスクールバスを出している事例もあり、朝日地域でも具体的な対応を考えてほしい。

また、先日の事業でデマンドカーを利用した中学生には好評だった。一方で、追加で乗車希望者が出た際、2 日前までの予約が必須であり空席があっても乗車できないなど、融通の利かない運用が利用しにくさにつながっていると思われ、改善の余地があるのではないかと考えている。

#### 【会長】

公共交通については、運行事業者の関係もあろうかと思うが、もう少し融通の利く利用しやすい交通機関になるよう努力していただきたい。

#### 【委員】

ばんぼについて、WaGeSho としてはこれまでイベントやテントサウナで有効活用してきた。資料では「サウナ等の活用は集客が見込めず行われていない」と記載されているが、温泉は使えなくてもサウナ設備は活用の余地があるのではないかと考えている。

また、資料には「温泉施設の利活用について、今後団体から意見を聞く段階」とあるため、現在どのような方向性で温泉施設の活用を検討しているのか、朝日庁舎の考えを確認したい。

#### 【支所長】

ばんぼは源泉の不具合により使用できなくなっているが、現在も NPO へ貸し付けしている状態である。サウナ等の活用については、利用料金で人件費等を賄う必要があり、源泉が使えない状況では運営が非常に厳しい。温泉を再開するには新たな源泉の掘削が必要だが、費用は億単位となることが想定され、普通財産である現状では市が掘削を行うことは現実的ではないと整理している。

一方で施設自体の利活用の検討は必要と考えているが、浴槽がある構造上、入浴以外の他用途への転用は難しいという認識である。

#### 【委員】

中高生への住民アンケートで将来の定住意向についての質問がある。自身の子どもは朝日に住み続けたいと言っていたが、子育て期に支援策を自治体ごとに比較した結果、鶴岡市では子育てがしづらいという評価になってしまった。

若者が将来地域に戻る可能性を語るだけでは不十分で、実際に子育て世代になったときに、住み続けたいと思える支援が整っていなければ、定住やUターンは実現しないと感じている。子育て支援や公共交通なども含め、地域の実情に即した支援策を強化しなければ、若い世代が朝日地域に残る・戻ることは難しいのではないかとというのが率直な意見である。

#### 【支所長】

現段階の子育て支援策として、所得制限なしで 0～2 歳児の保育料を無償化する制度を 9 月から開始する。他市町村にも類似の施策はあるが、市として地道に取り組んでいる支援の一つである。こうした施策は、子育て世代が安心して住み続けられる地域づくりの一つであり、今後

も支援の充実に向けて継続的に検討を進めていく方針である。

### 【委員】

朝日地域の振興懇談会での話題ではないかもしれないが「つるおかエール」について、公務員が利用できない制度となっており、看護師は対象になったものの教員などの公務員は依然として利用できない点に不公平感を抱いている。

行政に関わりたい、地域に戻って働きたいと考えている若者が、公務員になると制度を利用できないため、Uターンの特典が感じられないという声がある。以前、公務員が使えない理由を尋ねたときに、制度が税金を原資としているため公務員は対象外という説明は理解しているが、地域に戻ってきて教育や行政に貢献する人材にも何らかの支援があってほしいと感じている。企業支援も重要だが、地域に戻る若者や公務員として働く人にも恩恵がある仕組みが必要だと考えている。

### 【会長】

子育て支援もつるおかエールも市全体の制度であり、制度自体は良いが、条件不利地域に特化した支援がなければ、朝日地域への若者の定住促進にはつながらないと感じている。

先日開催された「朝日地域市長と語る会」で、市長が「防災無線よりスマホでの情報伝達を目指す」と発言していたが、その取り組みが現在どの段階にあるのか確認したい。スマホ活用が進むのであれば、高齢者向けのスマホ教室をさらに拡充する必要があると考えている。

それから、住民意識調査の集計結果から自分なりにまとめた感想について、朝日地域は過疎地域であり、豪雪や交通の不便さ、鳥獣害など、生活環境が厳しい地域であると改めて感じている。住民意識調査の集計結果でも、不安に感じていることとして、雪の問題、鳥獣被害の問題が上位にあげられていた。

さらに、中高生が生活に困っていることや不安だと思っていることとして、買い物場所の不足、遊び場の不足、交通の不便さが上位の課題として上げられている。

2015年に20～40代は1,199人いたが、2025年には30～50代として924人に減少し、10年で275人減少している。これは、住民意識調査の結果が示しているとおり、雪問題や生活環境の厳しさが影響していると感じている。

また、10年後も“若い世代が住み続けられる地域”を望む声が56.8%と高く、地域全体が若者定住を強く願っていることが示されている。

思い切って、かたくり温泉周辺に若い世代向けの克雪型住宅地を整備する構想を検討してはどうか。朝日地域振興計画の見直しも必要ではないか。次期「第三次鶴岡市総合計画」の策定に向けて、地域のにぎわい創出を目的としたプロジェクトチームを立ち上げ、住民の知恵を生かすべきではないか。

若い力がなければ自治組織が維持できない現状を踏まえ、行政と住民が協働し、10年後の地域づくりを担う組織体制を構築する必要がある。さらに、この懇談会を協議会として、責任を持って市の計画を推進する組織へ発展させるべきと思っている。

### 【支所長】

1 点目、防災情報伝達アプリ「コスモキャスト」については、昨年度、藤島地域と温海地域

で試験運用を実施し、防災行政無線の放送をスマートフォンで受信できる仕組みを検証した。豪雨時など防災無線が聞こえにくい状況でも、個人のスマートフォンに送信することで受信漏れを防ぐ手段として有効と確認された。加えて、遠隔地に住む家族が、親の住む地域の防災情報を把握できる利点も確認されている。

先月の住民懇談会や、ハザードマップ説明会で周知を開始しており、10月から本格運用を予定している。今後、資料を住民へ共有しアプリ導入を促進する方針であり、あわせて、スマホ教室や高齢者サロンなど、機会をとらえて周知に努める。

2点目については、提言としてお受けする。ご発言のとおり、若者が住み続けられる地域づくりは重要であり、行政だけで対応できることには限界があるため、民間の力も活用しながら、施策・組織体制の在り方を検討していく。組織的な枠組みの整備についても、今後相談しながら検討を進めたい。

### 【委員】

R天国、月山ゾウ、六十里越街道弁当など、地域の取り組みやイベントを知らない住民が多いのではないかと感じている。地域に良い取り組みがあっても「どこへ申し込むのか」「どこでそれをやっているのか」等わからないという声も聞く。住民への情報伝達が不十分なまま長年改善されていないと感じており、住民が地域の取り組みを知り、参加できるようになれば、地域のにぎわいづくりにもつながると思う。自身ももっと声を上げるべきだったと感じており、住民へ分かりやすく周知する仕組みが必要だと考えている。

それから、最近の地震・水害など全国的な災害を見ても、この地域の防災意識は非常に低いと思っている。各地域やコミセンで防災訓練を行っているが、「実際の災害時に役に立たないのではないか」という不安がある。地域ごとにバラバラに訓練するのではなく、もっと一体的で実効性のある防災訓練が必要ではないかと考えている。

### 【委員】

住民意識調査の「地域について話し合う機会があれば参加しますか」という問いに“参加しない”が“参加する”の約2倍となっており、非常に大きな課題だと感じている。この結果に対し「参加しない理由」を追加で尋ねる設問があってもよかったと思う。

地域の活動については、後継ぎがいる家庭といない家庭で温度差が大きくなっていて、自治会の運営も難しくなっている。自治会役員は年齢層ごとに持ち回りで担当しているが、担い手不足から同じ人が何度も役員を務める状況になっている。

若い世代が地域のために頑張っているのに、年配者から「集落がなくなる」などの言葉が出ると、若者の意欲を削いでしまうと感じている。地域の将来を支える若い世代を尊重し、地域全体で支える姿勢が必要だと考えている。

### 【委員】

鶴岡市内から朝日に嫁いだ経験から、朝日の住民は人柄がやさしく地域のつながりが強いと感じている。若い世代が中高生を地域行事に誘うなど、世代を越えた温かい関わりがある。子どもたちが太鼓の活動を通じて地域と関わる機会が増え、若い人の動きに温かさを感じている。

クマの被害については、親類が春にタケノコ採りに行っていて、クマによる被害が発生する

と収入に直結する。鳥獣被害は単なる危険だけでなく、地域の生業や生活基盤に影響する重大な課題だと感じている。

それから雪について、市内の出身地では雪下ろしの習慣がなかったため、朝日の雪下ろし作業に驚いた。自身も毎年雪下ろしを行っているが、息子たちも作業できるような年齢になったので協力してもらえるが、高齢者だけの世帯では対応が難しいと思う。家を守るために雪下ろしは必須であり、地域の協力や業者に委託するなど支援が不可欠だと感じている。

朝日は良い地域であり、今の子どもたちが将来も住み続けられる環境を残したいと考えている。

#### 【委員】

地元で神楽を継承しており、今年若い世代へ会長を交代した。神楽は地元出身で市内に住む若者にも協力してもらい、個々のネットワークを活かして人材をつないできた。新たに若いメンバーも加わり、地域からも「若い人に頑張ってもらってよかった」という声が寄せられている。若い人の居場所づくりが地域の活力につながるため、高齢者も協力しながら支えていきたいと考えている。

また、駅伝大会など若い人が地域のために頑張っている活動を支えるためにも、こうした地域のつながりやネットワークを途切れさせず、持続可能な活動につなげていくことが地域振興の大きな力になると考えている。

#### (2) その他

なし

#### 5. その他

なし

#### 6. 閉 会

(終了 20時35分)